

江戸川河口だより

国土交通省関東地方整備局
江戸川河川事務所
江戸川河口出張所発行
☎03(3679)1460
2018年4月4日【第63号】

江戸川水閘門周辺の桜について

国土交通省江戸川河川事務所が管理する江戸川水閘門周辺では、日露戦争(明治37年～明治38年)の戦勝記念として植樹された桜が今年も満開となりました。江戸川水閘門周辺で見られる桜は、かつて葛飾区金町付近から江戸川区篠崎付近までを咲き誇り、「江戸川堤の桜」として都内でも知られた桜の名所だったそうです。その後、堤防の改修工事や大気汚染等により、江戸川堤の桜は縮小し、今では江戸川水閘門周辺で見られるのみとなりました。

(参考文献:江戸川区誌)

江戸川水閘門周辺の桜の様子(撮影日:平成30年3月28日)



江戸川河口だよりは以下のURLまたは右のQRコードからもご覧いただけます。

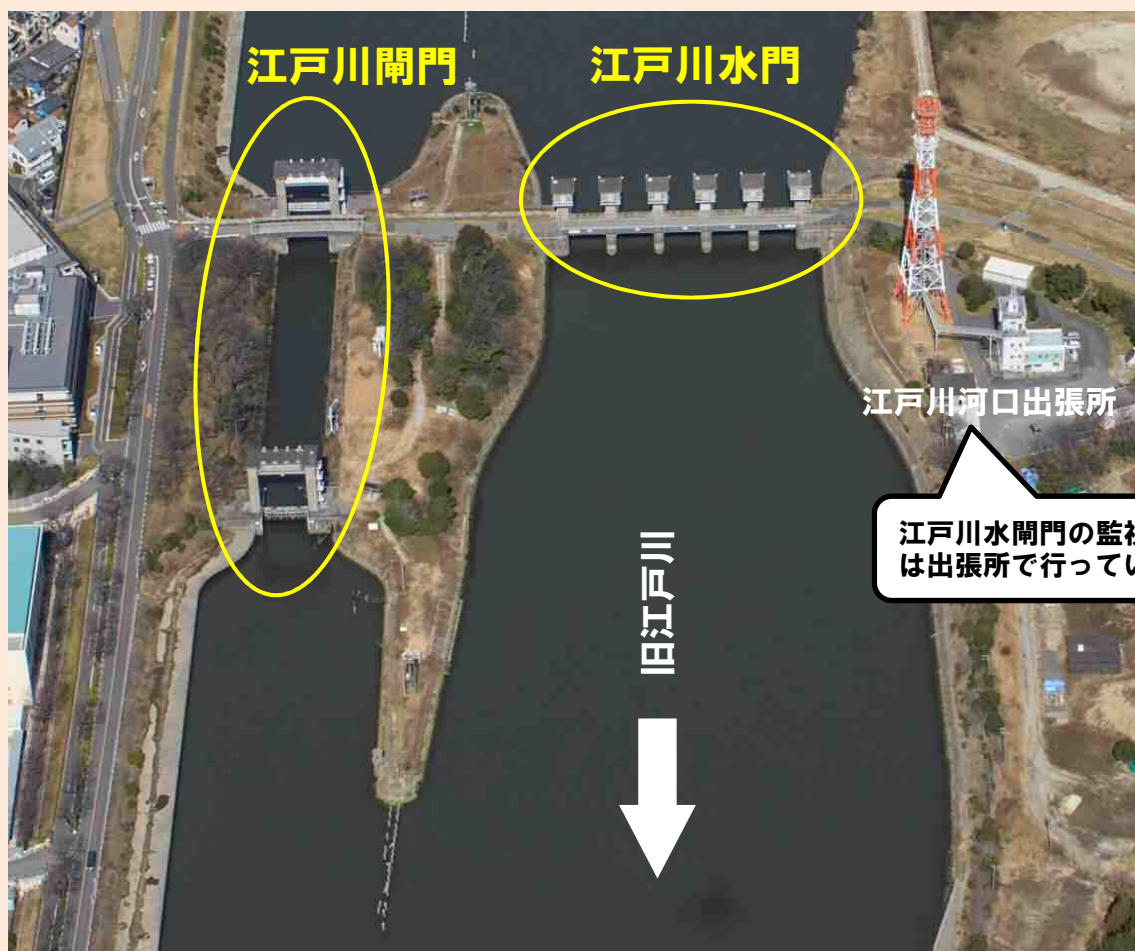
<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00003.html>



江戸川水閘門の紹介

江戸川水門と江戸川閘門を併せて江戸川水閘門と呼んでいます。江戸川の下流部は、首都圏約1,000万人への水供給を目的とした複数の浄水場を抱えており、これらの浄水場が海からの潮位の影響を受けることなく安定した水の供給を可能にするため、旧江戸川の上流部に江戸川水門が建設されました。また、水門の上下流で水位差が生じることから、旧江戸川と江戸川を船舶が航行できるよう江戸川閘門が併設されています。

安定した水を供給するため、24時間体制で監視と操作を行っています。
※江戸川閘門の操作時間は原則AM6:00～PM6:00となっています。



○江戸川水閘門の概要

- ・竣工：昭和18年（竣工より75年が経過）
- ・江戸川水門 鋼製ローラーゲート：幅10.6m 扉高5m×5門
- ・江戸川閘門 鋼製ローラーゲート：幅13.4m 扉高6.5m×2門

《編集後記》

江戸川水閘門は、上水の需要増加対策として東京市（現在の東京23区）から内務省に委託され建設した施設です。昭和11年より建設が始まり、昭和18年に完成しました。75年の歳月が経過した現在も現役で活躍しています。

『江戸川河口だより』編集長 江戸川河口出張所長